菊池政隆の墓

菊池政隆（1491-1509）の短い生涯は、1500年代の菊池氏の弱体化を物語っている。政隆の時代までに、一族内のいくつかの武将が率いる集団が、直接指導者に異議を唱えるほどの権力と影響力を得ていた。政隆が13歳で当主になった翌年の1505年、家臣たちは彼を追放して実権を掌握し、地域の有力者である阿蘇家の阿蘇惟長を当主に据えた。

政隆と彼に忠誠を誓った者たちは城下町の隈府を去り、時を待って菊池氏の指揮権を取り戻すための軍を起こした。1509年、その試みは失敗に終わり、政隆の残存兵200人は安国寺周辺に退却した。そこで両者は再び衝突し、敗れた政隆は安国寺にこもり、阿蘇惟長の軍勢によって寺が焼き払われる前に自害した。

政隆が没落してからの数十年間、内紛や敵対する武将からの脅威は菊池氏の弱体化を続けた。一族は次第に領地を失い、1500年代半ばには完全に征服された。

菊池政隆の墓は安国寺の裏にある。現在の墓石は、江戸時代（1603年～1867年）のある時期に、中国神話で縁起が良いとされた亀と蛇の形をした亀趺（きふ）の台座の上に立てられたものである。この様式は江戸時代に日本で普及し、1700年代から1800年代にかけて菊池当主の墓が再建された際にも使用された。